

韓国薬学研修報告

3年 16A122

野村祐里

はじめに

8月8～11日の4日間、韓国研修が行われた。東国大学、病院、門前薬局、漢方市場、韓医薬博物館などを見学し、東国大学の方々との交流を行った。主に3日目に訪れた漢方市場と韓医薬博物館についてまとめた。

漢方市場(ソウル薬令市)

漢方市場にはソウル薬令市の大きな門があり、門の下にシンボルとして生薬を煎じるための道具や薬研が設置されていた。様々な生薬が売られており、漢字で書かれたものもあったが、ハングル表記のものも多く、何かすぐに分からないため、形から推測してどの生薬かを考えるのも楽しかった。あるお店では、漢方薬の試飲をさせていただき、

甘い味がして体に良さそうだった。特に、鹿の角が沢山積まれて売られていたことには驚いた。ほとんどは箱や袋に入った状態で並べられていたが、外にそのまま置かれている店もあり、乾燥させているため問題ないと思うが、保存状態や衛生面で少し心配になった。漢方市場だけでなく、街中でも至る所で生薬が干されていたり、生薬独特の匂いがしたり、料理の中にも入っていたりして、日本にはない光景だった。韓国では身近に生薬があり、健康の維持に多用されていることが分かった。



韓医薬博物館

博物館にも多くの生薬があり、約 300 種類展示されている。漢方市場には置いてない熊胆や犀角などの希少なものや鉱物や蛙などの変わったものも展示されていた。他に、漢方についての書物、器具などが展示してあり、韓医学の歴史がわかりやすく説明されていた。昔の韓薬屋を再現した建物や朝鮮時代に実際に存在していた普濟院(ポジェウオン)と呼ばれる医療機関のジオラマなどもあり、昔から生薬が利用されていたため今でも身近に生薬が存在しているのだろうと感じた。病院や駅など至るところに置いてある、生薬を

保管するための棚は、博物館にも設置してあり、

昔使われていた棚も展示されていた。昔のものは少し小さかった。また韓医の伝統衣装を着る体験もでき、先生方がとても似合っていた。体験しながら学ぶことができるため理解しやすく韓医学により興味が湧いた。

感想

今回韓国に訪問する前に生薬学を学んだので、習った生薬の薬能や使い方、形、匂いについて実際に確認することができ、復習にもなりよかった。韓医学の歴史についても深く学ぶことができ、良い経験になった。

